

報告の流れ

事例 07年1月28日 東京都高等学校ハンドボール冬季研修大会 2試合

解析内容 1試合目を分析 試合間に2試合目のポイント指導 2試合目実践
 * 2試合目の解析は後日指導

指導の流れ **映像を見せ、改善ポイントを見せる(問題抽出)**
指導ポイントを絞る
指導ポイントのキーワード化

指導で心がけたこと
自分が話しすぎない
指導ポイントを絞る
キーワードを繰り返し意識させる

結果 Good 3ポイント、BAD 3ポイントを末尾に記載。

解析・コーチングの流れ

解析用タイムコード

1試合目 映像 : 佼成前半.mpg (試合後分析したエクセルデータはHDDの破損により消失)

タイム	問題点	修正ポイント
0931	貰う場所がDFに近い パス出せない	球回しを早く!
2205	ボール持ちすぎ つかまる	みんなでボール回しに参加!
2520	一人で持っていく つかまる	みんなでボール回しに参加!
	ポストシュートがない!!	ポストシュートを打てる崩しを!

2試合目 映像 : 中附前半.mpg (別シートに分析データのコピーを添付しています)

タイム	改善できたプレー
0400	ボール離しを早く 隙間できる
1349	ポスト・サイドが絡んで崩す
1941	ポストを使う

指導したキーワード

すく離す!

佼成前半	0931	中附前半	0400
	2205		

攻める際に、一人がボールを持ちすぎるとDFが崩れず攻めにくい。
 また、持ちすぎること隣プレーヤーがDFの近くに寄りやすくなり、
 隣に渡してもすくDFに捕まってしまう。

ボールをすく離す(パスをどんどん回す)ことで、相手DFを動かして隙間を作り、そこへ切れ込んでいく。

2試合目のプレーでは、上3人のプレーヤーが自分で動くのではなくボールを早く動かすことができ、DFの隙間を上手くついでシュートを打っている。

回る！

佼成前半	0931	中附前半	1349
	2205		
	2520		

パスを回す際に、全員がその場に固まるのではなく、ポジションチェンジを繰り返しながらパスを回していくことで、相手DFの隙間を作り、そこに切れ込んでいく。

2試合目のプレーはポストプレーヤー、サイドプレーヤーがパス回しに加わり、DFの隙間を作ることに貢献している。

ポストシュート | | | |------|------| | 中附前半 | 1941 | |------|------|

上記2つのプレーを繰り返していくことで、DFに隙間を作り、一番ゴールに近い場所でシュートを打てる「ポスト」の人間がシュートを打てる状態を作る。

ポストシュートはハンドボールの中で非常に決定率の高いシュートであり、その分相手DFを崩さねば打てないシュートのため、このシュートを打てる状態を作ることにはOFにおいて非常に重要である。

1試合目はできなかったプレー。

実際の指導の流れ

1試合目終了後、2試合目まで時間があつた(4時間ほど)ことを利用し、まず分析を監督と一緒にいき、問題点と次の試合へ向けてのキーワードを打ち合わせ。

次に、解析後プレーヤーを集め(画面の大きさの都合上数名ずつ)、改善キーワード3つを伝える。**お手本になるプレーの映像はなし、他チームの試合を一緒に見ながら指導したのみ。**

・2試合目の練習時間(前の試合のハーフタイム)
試合直前

の全員集合した場面でキーワードを声に出して繰り返した。

試合中にOFとDFで入れ替わる選手がおり、ベンチにいることも多かったので、良いプレーをした時にはすぐほめ、キーワードを再度確認させるよう努めた。

結果	GOOD 指導ポイントをプレーで実践できた。 監督と一緒に映像を分析をすることができ、監督とアナリストの意見の共有ができた。 試合後、次の土曜日でもキーワードを覚えている人間が多かった。
	MODIFY 全員に画一的にキーワードを与えたので、実践できた者とそうでない者がいた。 お手本となる映像がなく、問題抽出は映像で行えたが、映像によるGOODイメージを与えられなかった。(他のチームのプレーを見せる程度) ・2試合目のDFが良くなかったため、監督とDFのポイントを入れても良かった」というキーワードの設定の反省。